

電波有効利用を踏まえたIoT利活用事例の情報提供について (案)

- ① 今後、多様な分野で膨大な数のIoTの利用が予想されるため、ユーザ企業等において混信や干渉を発生させずに電波の有効利用を図りながら、IoTの導入・利活用を促進することが不可欠。
- ② ユーザ企業等において、電波の有効利用を図りつつ、IoTの導入により生産性向上や新サービス創出等につながった具体的な成功事例について、会員企業等から募り、分野毎に整理した上で、本フォーラムのホームページにおいて情報提供することを検討。
- ③ 事例の紹介に当たっては、分野や導入目的に加え、ユーザ側における効果や成功要因、課題等について整理することを検討。

(次ページを参照)

電波有効利用を踏まえたIoT利活用事例のイメージ（案）

分野	農業	取組名	農業機械むけの「スマートアシスト」	ユーザ企業	〇〇農業協同組合
----	----	-----	-------------------	-------	----------

<IoT導入・利活用内容>

導入目的 (課題など)	<ul style="list-style-type: none"> ● 農協では、後継者不足・高齢化等による農家戸数の減少によって、組合員の減少及び生産量の低下が問題となっている。 ● 組合員の減少防止及び生産量増加のためには、限られた人的資源で効果的かつ効率的な農業経営が必要であった。 	
連携パートナー	〇〇〇〇株式会社	
取組内容	<p>詳細</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 農業機械に組み込まれたGPS等によって、農作業の見える化を図った。主に以下のサービスを利用。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ エラー情報通知サービス 農機に搭載したセンサー等によって、状態をモニタリング。異常が発生時に、迅速な保守サービスを受けることが可能。 ➢ 盗難防止見守りサービス メーカーが農機の位置情報をモニタリングし、一定範囲を超えると盗難検知として、メールで通知を受ける。 ➢ 作業記録サポート GPS等によって作業内容(作業範囲など)を記録することで、効率的な作業計画の策定が可能。 ➢ 収穫量の集計・分析 収穫量や作業範囲をヒートマップで表示するため、作業の見える化が可能。 	
	効果	● 農作業におけるコスト・負担が減少し、農業経営の効率化を実現。
	成功要因	● 農機の管理・整備を負担と感じる高齢農家が多く存在したため、早期検知による保守サービスへのニーズが高かった。
今後の展開	課題	● 農協が当該サービスを導入し、利用を推進しても、利用者(高齢農家)のITリテラシーが低いため、十分にサービス(作業内容の記録を踏まえた経営改善など)を利用されない。
	展開計画	● 無人利用が可能な農機を今後活用することで、遊休農地等を効果的に利用し、労働生産性の向上を図る。

